

事業報告書 (平成29年度)

事業名 未来に生かす里山再生事業～南海トラフ地震に備えて～

団体名 就実・森の学校 担当者名 石田 省三

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

平成29年度 「就実・森の学校」活動報告
29年度 活動参加者合計

日	時	活 動 名	対 象	人数	備 考
1	4/16(日)	造山古墳祭り	一般	150	展示・古代食提供
2	4/23(日)	* 春の訪れコンサート	全学一般	400	
3	4/29(土)	* おばあちゃんの台所(出演)	一般	15	TSCテレビ瀬戸内
4	5/23(火)	* 就実中・操山ウオーク	中学生	50	野外生活体験
5	5/24(水)	* 講演とワークショップ	教員	100	ベルナデッタ講義
6	6/20(火)	* 陶芸教室(恵風苑)	介護施設	15	土鈴作り体験
7	7/6(木)	* 就実子ども園七夕祭り	幼稚園児	150	JR西川原駅
8	7/7(木)	* 御園幼稚園笠井山ハイク	幼稚園児	60	自然観察・散策
9	7/11(木)	* 富山公民館防災講演会	一般	40	カボチャクラブ
10	7/14(金)	* 津島幼稚園ワークショップ	幼稚園児	150	竹とんぼ他
11	8/5-6	* マーフェスin就実・森の学校	全学齢	60	7-4設備野外体験
12	8/20(日)	竹灯籠作成体験	一般	20	ESD京山祭り用
13	8/24(木)	有森裕子キッズキャンプ	小学生	50	野外生活体験
14	9/26(火)	* 竹細工ワークショップ	幼稚園児	100	朝日塾幼稚園
15	10/7(火)	共 ノルディックウオーク上級	一般	30	岡山市里山センター
16	10/10(火)	* 秋の里山体験	幼稚園児	106	朝日塾幼稚園
17	10/14(土)	JR鉄道フェスタ	一般	200	岡山駅東口展示
18	10/16(月)	国連観光シンポジウム		50	岡山市コンベンションセンター展示
19	10/30(火)	* 秋の里山体験	幼稚園児	60	山陽幼稚園
20	10/31(火)	* 秋の里山体験	小学生	90	就実小学校
21	11/2(木)	* 子ども園ドングリひろい	幼稚園児	150	就実子ども園
22	11/5(日)	秋の街花フェア	一般	200	TSC主催
23	11/25(土)	共 TSCノルディックウオーク	一般	40	TSCと共催
24	12/3(日)	子どもの町	小学生	100	京山公民館
25	12/16(土)	宇野ICHI	一般	20	就大経営学部
26	1/28(日)	* 青空観察会(里山レンジャー)	小学生	40	岡山市・公園協会連携
27	2/11(日)	* グリーンボランティア	高校生	80	アカマツ林下草刈り
28	2/24(土)	* 竹楽器(講演・ワークショップ)	教員	30	岡山県保育士養成学校
29	3/10(土)	共 TSC里山レンジャー	一般	70	堆肥作り・権芽植苗

合計 2,656名

行事参加人数：主催行事は参加実数(*)印

他団体との共催の場合は(共)印

他団体主催行事の参加者数は展示場等訪問数(概数)

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

活動を始めて8年目を迎える。本団体は敷地のおよそ7割を竹林が占めている学校林をフィールドとし、自然環境、資源、歴史遺産の保護、地域の変容などの調査研究を目標に活動をすすめている。29年度も主に次の4点を重点目標として活動した。

1. 防災拠点・防災倉庫の整備

南海トラフ地震の危険性が叫ばれておりその発生確率は年を追って上がってきている。岡山県南の広大な干拓地の北に位置する「就実・森の学校」では、かかる巨大地震に備えて校地の一部を防災拠点（緊急避難地）として整備し、防災倉庫を設置するなどの対策を始めている。29年現在、防災倉庫は中型3棟、大型1棟の計4棟になり、「森の学校」で生産した緊急時に使用する燃料（竹炭約300kg）、七輪、ヘルメット、スコップ、米など緊急用炊飯器具や水、食料などの備蓄品も徐々に充実してきた。この活動を通して地域の防災に少しでも役立つことが出来ればと考えている。

2. 歴史遺産の保護、教育活動

校地内には8世紀後半頃のものと思われる26基の古墳が存在する。「就実・森の学校」ではこの生きた歴史遺産を次世代に伝えるため生徒・学生と共に古墳の整備、保護活動をすすめている。一般参加の方も徐々に増加し、共に古墳の保護管理について検討しながら活動している。

3. 竹林を中心とした山林整備活動

校地内の竹林は、長く放置状態であったため、新旧の竹が入り乱れ、昼なお暗い状態となっており、分け入るのも難しいところが広範囲に残っている。「就実・森の学校」の整備の要はこの竹の間伐、整理である。28年度も整備活動を通して、里山のあるべき姿を生徒・学生とともに考えてきた。

4. アカマツ林再生活動

現代から未来に続く里山づくりをすすめていくためには、レクリエーションの森や、植生を調べる森など現代の若者が興味を持つ側面を作り出す工夫も必要である。アカマツ林の植林もその一つの試みで、生徒や学生達はかつての植生の再生と産物としての松茸の生産を期待しながら活動を続けている。平成27年度末で約4,000本のアカマツの植林が完了した。29年度からは下草刈り、間伐作業を実施した。適切な管理によりアカマツ林が復活することを願っている。

「就実・森の学校」では生徒、学生達が、出来るだけ自然を活用した生活技術を習得し、その体験が、防災につながることを目的としているが、徐々にこの考え方が生徒学生に浸透してきているのではないかと考えている。今後も本活動を継続的にしていきたい。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

森の学校では年間30回程度の行事を組み、様々な学齢に向く教育プログラムを実施してきた。29年度は例年以上の来校者を迎え、充実した一年の活動であった。今年度は幼稚園の来校が大きく増加し6園となった。里山への関心の高まりを感じる。

28年度、富山学区の全世帯を対象に防災アンケート調査を実施、29年夏に結果をまとめた。(別添資料)これを元に今年度の運営を考え、次の3点を重点目標として活動した。

1. アンケートから、思ったほど危機意識が高くないことが判ったが、その半面、このアンケートをきっかけに防災講演を依頼してくるグループも出てくるなど一定の成果はあったと思われ、引き続き切れ目ない調査と活動を展開していきたい。
2. 里山整備および避難地における防災設備（防災倉庫）の設置および充実
防災倉庫が昨年の2棟から4棟となり備蓄物が充実してきた。しかし目標としている200名が3日間過ごすには水の問題等克服すべき課題は多い。
30年度は簡易トイレ及び水の問題を考えたい。
3. 避難経路の整備および避難案内表示板の設置
避難経路の整備には多くの人員が必要で、まだ道半ばである。30年度は地域住民の方々と協働し避難地図を完成させたいと考えている。

4. 今後の課題と展望

26年度からは防災を重点に事業を進めているが、29年2月に富山学区の全世帯（5,100世帯）対象に防災意識のアンケートを実施した。アンケート回収率は25.3%であった。アンケート結果は別紙『岡山市民の防災意識に関する研究』にまとめたが、森の学校周辺地域住民の防災意識は事前に考えたほど高くないことがわかった。そのためか地域で開催された防災関連行事への関わりも少なく、半数以上の住民が、参加したことはないとの答えを寄せている。

しかしこのアンケートを実施したことにより、富山公民館の防災活動の一環として講演会を持つことが出来、また30年度の富山学区ジュニア防災活動(婦人会・中学校中心との活動がスタートする予定)への協力も依頼され、3月下旬に会合を持つ。徐々にではあるが、我々の活動も理解され浸透し始めているのを感じる。

隣接する富山学区の海吉本村町内会および海吉中村町内会と防災協定を締結することが出来たが、29年度は防災訓練が出来なかった。これらも合わせて30年度は効果的な防災訓練を実施したい。